

「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」
領域開拓プログラム最終評価結果表

課題	規範理論と経験分析の対話
研究テーマ名	規範理論としての法語用論の開拓—ヘイト・スピーチの無効化をめぐる—
研究代表者	尾崎一郎
所属機関・部局・職	北海道大学・大学院法学研究科・教授
研究成果の総合評点：A	
研究成果に係る所見	
<p>ヘイト・スピーチをめぐる問題は極めて深刻である。本研究はその無効化のため、ネット上のヘイト言説の収集とコーパスの構築を行い、発話者の集団極性化の解明や、発話の心理的メカニズムを明らかにした点で評価できる。採択時に付された「異分野研究者との連携」について十分な配慮が行われたのか疑問が残る。コーパスの構築とその分析、それに基づく実験結果と海外調査を通して、言語的分析と法的観点を有機的につなごうとする試みは順調に行われた。ヘイト・スピーチが未知なる他者への不信感に根ざした先制攻撃とする知見は政策立案に有用であるが、全体的な研究成果の発表が中間報告の段階にとどまっており、これは時間的制約からやむを得ないところもあるが、今後、本格的な成果の発表が続くことが期待される。</p>	

※ 「研究成果の総合評点」に対する標語は下記のとおり。

- S. 研究目的に照らして、期待以上の成果があった
- A. 研究目的に照らして、期待どおりの成果があった
- B. 研究目的に照らして、十分ではなかったが一応の成果があった
- C. 研究目的に照らして、十分な成果があったとは言い難い